

ジオスペース館だより

ステラナビゲーター11を使用して作成

★ 今月の星もよう ★

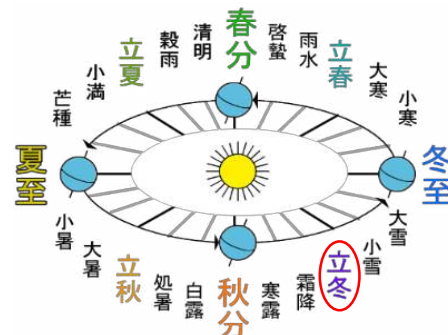
11月中旬夜8時頃の夜空を見上げると、南の空高くに「ペガサス座」が昇っており、ペガサスの胴体にあたる4つの星を結んだ《秋の四辺形》は、《ペガサスの四辺形》とも呼ばれています。そして、南の空には、西から「やぎ座」「みなみのうお座」「みずがめ座」「うお座」「くじら座」と、水や海に関連する星座が並んでいます。古代オリエント（古代のメソポタミア・エジプト・ペルシャ）の人々は、その辺りの空を



海に見立てていたようです。「やぎ座」も星座絵が示すように、下半身が水につかった魚の形で描かれています。《秋の四辺形》の右の辺を南の方へ延ばしたところにある秋の星座の中でたった1つの1等星は、「みなみのうお座」のフォーマルハウトで、その名前はアラビア語で「南の魚の口」を意味する言葉からきています。このフォーマルハウトから上の方へ点々と続く星の並びは、水がめをかつぐ美しい少年ガニメデスの姿をした「みずがめ座」です。「みなみのうお座」は、みずがめ座のガニメデスが持つ水がめから流れ落ちる水を飲む、魚の星座なのです。今年の秋の夜空は木星と土星も明るく輝いていますので、たいへん華やかです。

★ 二十四節気・11月7日は《立冬》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。11月上旬の節気は《立冬》と呼ばれ、毎年11月7日頃になります。《立冬》とは、冬が始まるという意味で、どこことなく冬の気配を感じはじめる頃をいいます。言いかえれば秋の終りで、紅葉の見ごろな時期でもあり、これから空気はいよいよ冷たくなって、冬の寒さに備えはじめる季節です。



二十四節気と、太陽と地球の位置関係

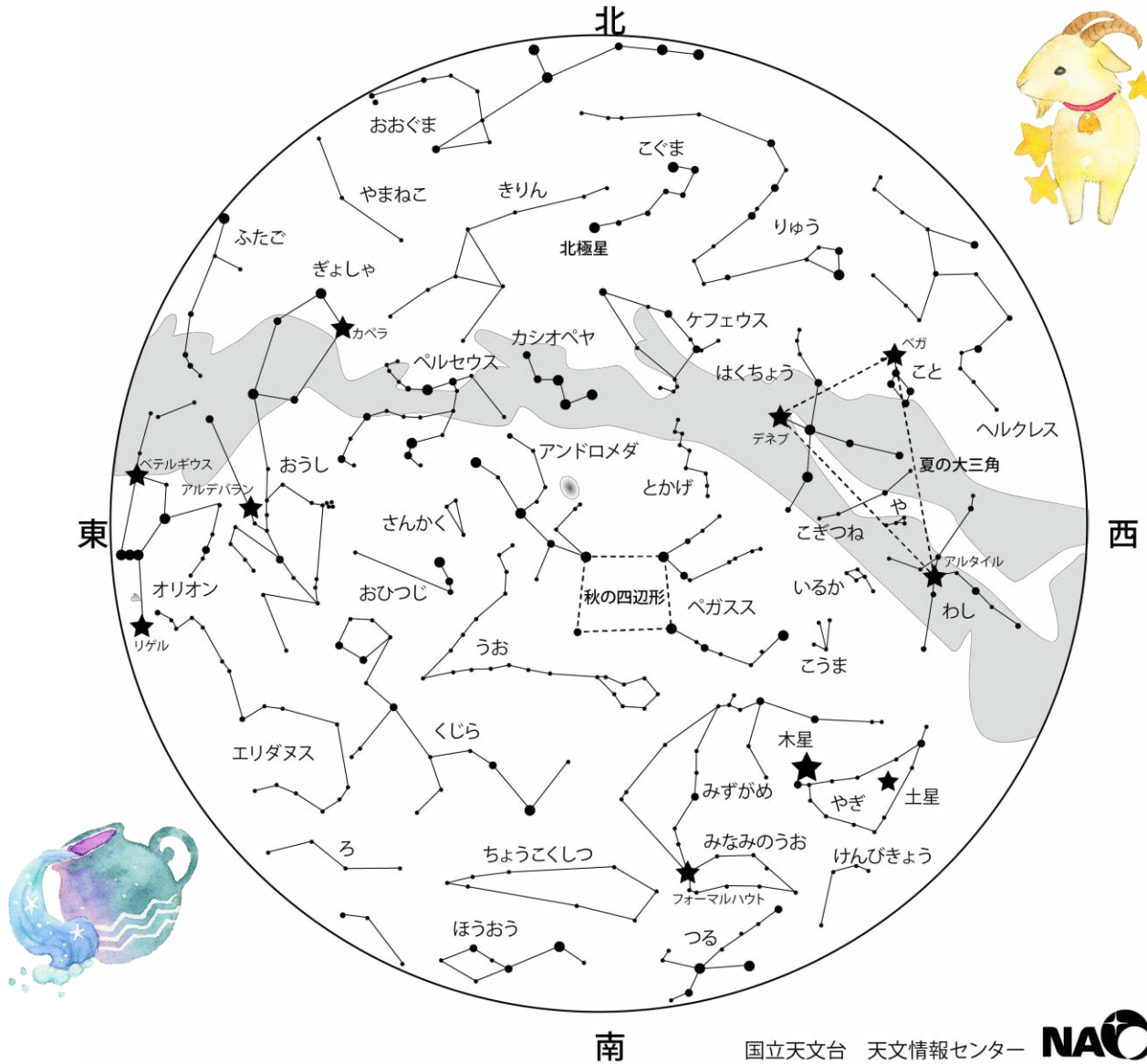
★ 11月8日、夕方の空で月が金星に接近！

11月8日の夕方には、南西の低い空に金星と月が間近に並んでいるところが見られます。月は日の入り頃すでに見えていますが、空が暗くなるにつれ、月の右下に金星が輝いて見えてきます。そして、月と金星は時間がたつにつれて少しずつ離れ、地平線に沈んでいきます。印象的な光景となるので、短い時間ですが、ぜひ観察してみてください。日中には月が金星をかくす「金星食」になっています（豊川市での潜入13:45、出現14:29）。



- ★ 11月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください★
- ★ プラネタリウムのお休み 11/1(月)、4(木)、8(月)、15(月)、17(水)、22(月)、24(水)、29(月)
- ★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

11月上旬午後9時頃の星空



南

国立天文台 天文情報センター



★ 11月上旬の主な天文現象

3日(水)	準惑星ケレスがアルデバランに大接近	8日(月)	昼間の金星食、細い月と金星が接近
5日(金)	● 新月、天王星が衝、おうし座南流星群が極大の頃	10日(水)	月と土星が接近
7日(日)	立冬	11日(木)	● 上弦 月と木星が接近
		12日(金)	おうし座北流星群が極大の頃

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ 11/1~15) ※下記時刻は、予想値です

◇ 11月 8日(月)	[見やすさ ◎]	5:51	北西	~	5:57	南東
◇ 11月 9日(火)	[見やすさ ◎]	5:05	北北西	~	5:10	東南東
◇ 11月10日(水)	[見やすさ ○]	4:20	北東	~	4:22	東
◇ 11月11日(木)	[見やすさ ◎]	5:08	西	~	5:12	南南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。